



“千代田中だより”

千代田中学校教育目標

夢と誇りを持ち 自ら学び行動できる 心身共に調和のとれた生徒の育成

<https://www.education.saga.jp/hp/chiyoda-j/>

TEL 0952-44-2222



神崎市立
千代田中学校

伊東玄朴の足跡を辿る（たどる） 視察研修報告

2月25日（日）に神崎市中央公民館にて伊東玄朴223年祭が行われました。その記念式典で本校1年生 田中 希采さん、中座 貴子さんが8月に参加した東京への視察研修の報告発表を行いました。伊東玄朴にゆかりのある施設や記念碑を訪れ、その時感じた気持ちや学んだことを発表してくれました。「神崎市のこのような偉大な先人について改めて詳しく知り、とても勉強になりました」と感想を述べました。他の参観者からも「素晴らしい発表でしたね」と称賛の言葉をいただきました。お疲れ様でした。



嘘つきは泥棒の始まり

嘘を平気で言うようになれば、盗みや人をだまし金銭を取ること
も恥ずかしくなくなる。嘘はすべての罪悪の出発点になるという意
味です。このことわざとは関係がありませんが、嘘に関する小話が
あります。

息子がうそつきの現場を母親に見つけられて叱られた。「お母さ
んはね、あなたの年齢では決して嘘なんかつかなかったよ」とすると
息子は不思議そうな顔で言った。「じゃあ、いつからうそをつき始
めたの？お母さん」

嘘は泥棒の始まりですよと注意した息子から、約束を破って、う
そつきと責められ、泥棒の始まりだと逆に言われるお父さんやお母
さんがいたとかいないとか。子どもは鋭い感覚をもっています。大
人の嘘を見抜くのが上手です。先生と呼ばれる私たちは、子どもと
正面から向き合い、誠実に対応を重ねていく必要があります。分か
っていますが、再度心にとめておきたいものです。こう言われな
いように「先生はいつからうそをつき始めたの？」

学童美術展(立体審査)の表彰です。 おめでとうございます！

県特選

- | | | |
|----|-------|-------|
| 1年 | 井上 愛結 | 園田 敦己 |
| 2年 | 榎 知子 | 溝口 心葉 |
| 3年 | 古賀龍之介 | |

県準特選

- | | | |
|----|-------|-------|
| 1年 | 原口 奈々 | |
| 2年 | 舩津 心美 | 矢野 結乙 |
| 3年 | 中村 凜果 | 原口 絢夏 |

地区入選

- | | | |
|----|-------|-------------|
| 1年 | 早田 杏 | 橋本 樹輝 |
| | 高橋 果歩 | 黒田 結愛 |
| 2年 | 神代 大暉 | 中島 悠吾 |
| 3年 | 長瀬 心美 | 江口 月渚 高野 莉杏 |

【県特選作品】



井上 愛結



園田 敦己



榎 知子



溝口 心葉



古賀龍之介

祝 卒業！ 86名が巣立ちました

3月8日(金)、第66回の卒業証書授与式を本校体育館で行いました。

新型コロナウイルス感染症拡大の心配も小さくなったため、5年ぶりに制限をなくし、在校生も全員が出席し来賓を招いて卒業生を祝うことができました。当日は天気にも恵まれ、86名の卒業生が将来の夢・希望の実現に向け、学び舎を巣立ちました。卒業生は中学生最後の自分の姿を自分の心にしっかり焼き付けたことと思います。そして式歌や校歌斉唱の中に思いを込め、感動の卒業式を創り上げてくれました。卒業生の保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。卒業生にとって春からの新生活が充実したものになることを願っています。86名を代表して、前生徒会長の 中村 心音 さんが答辞を述べました。

卒業生代表の答辞(一部抜粋)

あたたかな陽の光が城原川の水面にふり注ぎ、春のおとずれを感じる今日。私たち八十六名は義務教育九ヶ年の過程を修了し、千代田中学校を卒業します。

三年前、今より心も身体もまだ幼かった私たちは、真新しく大きい制服を着て、これから始まる中学校生活への不安と期待を胸に、この千代田中学校の門をくぐりました。新しい環境に、緊張していたことが、つい最近のことのように思い出されます。

ご列席くださいました来賓の皆様。皆様のおかげで、安心して登校することができました。ご祝辞の言葉のひとつひとつを心に留めて歩いていきます。

校長先生をはじめ、諸先生方。いつも私たちのことを一番に考え、真剣に向きあってくださいました。温かく励まされ、うれしい時には一緒に喜んでくださった日々を私たちは決して忘れません。コロナ禍で、多くの制限があった学校生活でも、楽しく充実した日々を送れたのは先生方のおかげです。本当にありがとうございました。

在校生のみなさん。彩り豊かな学校にするための生徒会活動は、どうあるべきか。役員で考え、みなさんの協力のもとに活動も進めることができました。今後、生徒会長を中心に、千代田中学校をよりよいものにしていく活動が行われていくことを信じています。皆さんに、この誇りある千代田中学校を託します。

最後に、大好きな三年生の仲間。楽しいときには笑い、落ち込んだ時には励まし、応援しあった仲間は、いつも心の支えでした。みんながいたからこそ、三年間の学校生活が楽しかったです。今日は、それぞれの未来に踏み出すお祝いの日でもあるのに、寂しさがこみ上げてきます。これからも、千代田中学校での三年間を励みに、前を向いて歩いていきましょう。みんなの思い出は一生の宝物です。いままで、本当にありがとう。

たくさんの思い出のつまった千代田中学校との別れの時が近づいています。私たちは、この千代田中学校の生徒で本当に良かったと心から思います。この母校での素晴らしい出会いに感謝し、皆様のご健康とご多幸、千代田中学校のますますの発展を祈念し、答辞といたします。

令和六年三月八日 卒業生代表 中村 心音

学校長の式辞(一部抜粋)

八十六名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。いま、九年間の義務教育の修了を示した卒業証書を手渡しました。一人一人が晴れやかな表情で、無事この日を迎えられることをめでたく、うれしく思っています。

本日、私は、卒業という大きな節目に当たり、皆さんに、大切なことを二つ伝えたいと思います。

一つ目は「我以外皆我師(われいがいみなわがし)」という言葉です。これは、剣の奥義習得を目指した宮本武蔵を描いた際に、作家・吉川英治さんが記した言葉です。武蔵は、武士としてさらなる高みを目指すために、あらゆる人々の話に素直に耳を傾けたといえます。みなさんはこれからの長い人生で、多くの人と出会います。すばらしく尊敬できる人からは多くのことを学ぶことができるでしょう。しかし、あまり自分に関係のない人・または気があわない人や嫌いだと感じたら、その人から学ぼうとしません。自分より年下の者からはプライドが邪魔して教えてもらうことを嫌がってしまいます。しかし、周りのすべての人が自分に何かを教えてくれる先生だと思って接してください。その心構えがきっと皆さんを大きく成長させることと思います。

二つめは「よい花は後から」という言葉です。意味は「すぐれたものは時間をかけて後から現れる」というものです。早く咲き始める花よりも、後から咲く花の方が美しいということから転じた言葉です。学習やスポーツ・習い事などで、すでに素晴らしい成績を出している人がいます。そういう人と自分をつい比べてしまい、自分に生まれながらの才能がないとか、あの人にはかなわないと言って嘆きあきらめる人がいます。しかし、ほとんどの場合、その人に足りないのは、努力し続ける才能です。努力を続けることができる人こそが、才能ある人なのです。

どうか皆さん「我以外皆我師(われいがいみなわがし)」「よい花は後から」という私からの二つのメッセージを心の隅に置きながら、これからの人生をしっかりと歩いてほしいと思います。

令和六年三月八日 神崎市立千代田中学校長 原田 浩臣